

途上国ビジネスの社会的インパクト評価 ～ビジネスがもたらす開発効果～

SDGs、ESG投資、統合報告書・・・

貴社事業の社会への貢献度合いを「見える化」してみませんか？

2015年9月の国連サミットで持続可能な開発目標 (SDGs) が採択され、17の目標と19項目の具体的なターゲットが設定されました。SDGsへの取り組みは環境・社会・ガバナンスといった非財務情報を考慮して行う「ESG投資」の評価軸としても活用されるようになりつつあり、民間企業に対して社会的な貢献を求める声は一層強くなっています。

そのような中、社会的課題の解決による効果を定量的・定性的に測る手法として「社会的インパクト評価」が注目されています。本研修では、実在する民間企業の途上国における事業を題材として社会的インパクト評価の概要や手法の習得を目指します。講師には同領域の第一線で研究・実務を行っている慶應義塾大学政策・メディア研究科の特任講師／特定非営利活動法人SROIネットワークジャパンの代表理事の伊藤健氏をお招きします。

皆様のご応募お待ちしております。

研修の達成目標

その1 社会的インパクト評価の概要が理解できる

本研修は、社会的インパクト評価についての概要に関する講義や事例紹介(1日目)と、具体的な手法・手順についての講義、事例を活用したグループワーク(2日目)の2部構成です。講義で社会的インパクト評価のポイントを学び、事例紹介で途上国ビジネスと開発課題解決についての具体的なイメージを持ち、そしてグループワークで実際にバリューチェーン分析やロジックモデルの作成、アウトカム・インパクト評価のための調査設計を体験します。このプロセスを経ることで短時間のシンポジウム等にはない深い学びを狙います。

その2 自社途上国事業でロジックモデルを作成できるようになる

本研修では、パナソニックのソーラーランタン事業を題材として、民間企業の途上国事業と当該国の開発課題との結びつきを論理的に整理したモデル図(ロジックモデル)を作成し、途上国事業がどのような形で開発課題解決に寄与しているのかを「見える化」します。ロジックモデルの作成に際して、バリューチェーンに沿って関係者を洗い出し、当該事業あるいは製品が持つ開発効果を分析していきます。グループワークで実際に手を動かすことで、講義で学んだ方法論の定着を狙います。

その3 社会的インパクト評価に関する調査を設計できるようになる

途上国事業が持つ社会的インパクトを評価するためには調査が必要になります。本件集では「どのような視点・方法で調査を進めて行くべきか？」あるいは「どのような指標を設定すべきか？」といった点をグループ内で議論し、それをグループ間で共有することで理解を深めていきます。

その4 評価結果の活用方法について理解を深める

本研修では、単に評価の方法を学ぶだけではなく、「調査の結果をどのように次につなげるか」についても講義・グループワークを通じて検討していきます。評価結果を統合報告書やプレスリリースといった対外的な発信に活用するだけでなく、当該事業の改善案についても議論することで社会的インパクトに対するPDCAを擬似的に体験することができます。

日程、プログラム等の詳細は次ページ以降、もしくはWebサイト (http://www.fasid.or.jp/training/42_index_detail.shtml) をご覧ください。

研修詳細

- 主催： 一般財団法人 国際開発機構 (FASID)
- 日時： 2018年2月 15日 (木) 19:00～21:00
16日 (金) 9:30～17:30
- 場所： 当財団セミナールーム (港区麻布台) ※詳細はp.3をご覧ください。
- 対象： 新興国・途上国でのビジネスに関心がある民間企業 社員
(開発機関等からの受注/調達を検討している企業、CSR担当者等)
社会的インパクト評価に関心があるNGO/NPO職員、コンサルタント
- 定員： 1日目 (2月15日: 講義、事例紹介) 40名
2日目 (2月16日: ワークショップ) 25名程度 (先着順)

プログラム詳細

2018/2/15(木) テーマ: 社会的インパクト評価とは (概論、代表的手法等に係る講義・事例紹介)

19:00-19:05	オープニング	(一財)国際開発機構 (FASID)
19:05-20:15	講義① ～社会的インパクト評価 概要	慶應義塾大学政策・メディア研究科 特任講師 伊藤 健氏
20:15-20:35	事例紹介 ～パナソニック社のソーラーランタン事業	パナソニック株式会社 国際渉外部 企画課 主幹 中村 淳一氏
20:35-20:50	JICAの視点から見た同事業 ～パナソニック社のソーラーランタン事業	JICA 民間連携事業部 連携推進課 主任調査役 福原 一郎氏
20:50-21:00	質疑応答	

2018/2/16(金) テーマ: 開発インパクトの創出

9:30-10:45	講義②/演習① ～ステークホルダー分析	講義・演習: 慶應義塾大学政策・メディア研究科 特任講師 伊藤 健氏
10:55-12:30	講義③/演習② ～想定する開発効果を示すロジックモデルの作成	
13:30-14:30	講義④/演習③ ～アウトカム・インパクト評価のための指標の検討	
14:40-15:40	講義⑤/演習④ ～社会的インパクト評価に関する調査設計の検討	
15:50-16:20	講義⑥/演習⑤ ～評価結果から事業戦略へのフィードバック	
16:30-17:30	講義⑦ ラップアップ ～カンボジア、ミャンマーの事例とケニアとの比較	

※プログラムは予定であり、予告なく若干の変更がある可能性があります。

応募方法

■応募方法：下記のオンライン応募フォームよりご応募下さい。
<https://form.fasid.or.jp/contact/application7/index.php>

■募集締切：2018年2月5日(月)正午まで
 2/6(火)までに参加の可否及び参加費の支払方法などについてご案内いたします。
 なお、応募状況によっては、ご期待に添えない場合があります。

■参加費：

参加形態	参加費(税、教材費込)		お支払い方法
	一般	法人賛助会員・フレンズ	
2日間通し(2/15, 16)	15,000円	12,000円	口座振込み※1
2/15のみ※2	3,000円	2,500円	当日現金支払い

※1：参加費用は、別途ご案内する期日までに当財団の口座までお振込みください(振込み手数料は各自ご負担となりますのでご了承ください)。一旦お振込みいただいた参加費は、実施を見送る場合や講師の都合で中止になる場合を除き、受講キャンセルの場合も払戻はできません。

※2：2/16のみの参加はご遠慮いただいております。

■お問合せ先：
 一般財団法人 国際開発機構(FASID)
 国際開発研究センター 原木/原田

電話：03-6809-1997

Email：devbiz@fasid.or.jp

住所：〒106-0041

東京都港区麻布台2-4-5 メソニック39MTビル6F

アクセス：

東京メトロ日比谷線 神谷町駅 2番出口より徒歩6分

都営大江戸線 赤羽橋駅 中之橋口より徒歩7分

都営三田線 御成門駅 A1出口より徒歩10分



FASIDのご紹介

(一財)国際開発機構(FASID)は、2012年10月1日に設立されました。その前身である財団法人国際開発高等教育機構は、外務省・文部省(当時)共管により1990年に設立され、以来20年以上一貫して、国際開発に関わる人材育成事業、及び開発援助の効果的効率的な実施のための調査研究事業を実施してきました。これまで行政官、援助実施機関、開発コンサルタント、NGO、大学関係者(教員及び大学院生)、民間企業社員などを対象に多種多様な人材育成事業を実施してきました。

「開発と企業セミナー」は外務省委託により1998年に開講しました。開始当初は、貿易・投資といった企業活動が開発途上国の経済・社会的発展に与える影響を「国際開発」の視点から分析・議論してきました。その後、今日まで国内・海外の講師にご協力いただき、国際開発と企業に係わる新たな動きをいち早く本セミナーで取り上げ紹介することも含め、国際開発分野の研究と実践現場を繋ぐパイオニア的役割を果たしてきました。

2012年度より本セミナーは、FASIDの、公益目的の自主事業として実施することになりました。FASIDは、引き続き皆様の役に立つセミナーを提供してまいります。